

## 「要員不足」という病 (原因は会社の「不誠実」)



1日の直轄協議会において国労は、主に「組合説明無しの乗務行路持ち替え」「乗務員職場では要員不足のため年休が全く取れないこと」「ベテラン乗務員の健康状態に対する配慮の有無」について説明するよう会社に深く追求しました。これに対する会社側の回答は、どの項目についても、「若年退職者が多く、会社としても頭を悩ませているところで、可能な限りの事はしているのだから、ご理解頂きたい」といった主旨のスカしたもののばかり。もはや「協議」になっていない。会社としても、これほど離職者が続出することは予想できなかったと「ミス」を認めているようですが、本当に「反省」しているのなら、「離職」の最大の原因である「ボーナス低額支給」を改め、元の水準に戻す、また、「時短契約」であるにも関わらず、要員不足のため「フル」で勤務しているベテラン乗務員に対しそれ相応の「対価」を支払う、といった措置をとるのが「誠意」というもの。また、「行路持ち替え」についても「説明する時間」くらいはあるはずで、これは、「列車が遅れていても決められた作業はきちんと行いましょう」というのと同じレベルの話です。そもそも、いまの「要員不足」は、本当にただの「ミス」なのか。「安定供給が基本」という約束を破りボーナスを半分もカットし、「BPR」という名のインチキで業務の利便性を著しく低下させたら、会社に見切りを付ける社員が増えるのは、本来誰もが予測出来ること。要するに、会社は「コロナを理由にすれば、何をやっても、社員は文句を言わずに働くだろう」と端から私たち労働者を舐めきっていたというわけです。現在の「要員不足」は、もはや、会社の「悪意」によるもの。こちらが真つ当な主張を続ける一方で、断固シラを切り通す会社のロックダウン的態度は「不誠実」そのものです。

### 青年のひとりごと

「この時期になると、職場によっては、退勤後に上司から呼ばれる若手社員がちらほら見られます。何でも、近々開催されるJRK発表会の準備のために休日出勤するよう脅されているようで、本人たちは、内心嫌でも、今後どういった扱いを受けるのか分からないという恐怖から、渋々従っているのだとか。酷いことに、たとえ予定があったとしても、無理矢理ずらすよう圧力をかけられるらしく、そこでやり合うのも怖いし面倒だからと、結局は出勤せざるを得ないようです。「自主」活動を断るために「正当」な理由を考えなければならないのは、「自分の時間」は会社のためにあるようなもの。友達との予定など入れられるはずがありません。」  
我ながら読みやすい文章。これは機関誌「若い力」29号の後半部分に記載した「Aさん」「Bさん」「Cさん」の「会話例」※を一つの文章につなげたものです。※A「さっき上司の〇〇さんに呼ばれてなかった？」  
B「うん、〇日にJRKやるから出てこい！て言われた」  
C「俺も。本当は忙しくてそんな暇ないけど、いろいろ脅されて、この先何されるか分からないから出てくることにしたよ」  
B「俺なんて、用事があると断ったら『予定ならずらせるやろ！』て言われた。後が面倒だから俺も出てくるよ」  
A「俺も言われるかな？予定あるのに何て言って断ろうかな？」  
C「何で自主活動を断るのにここまで言われたいいけないんだろ？」  
B「友達との予定も入れんばい」。このように、文章を書く際、まずは複数人の会話を想像し、それを一つにまとめる形で表現すると、読者に対し、あたかも目の前で会話が行われているかのような印象を与える生きた文章になるから面白い。というのは、先日、私は、とある先輩から「君が書く最近の『若い力』はまるで駄目。昔の記事は本当に良かった。これからは、いつそのこと過去のバックナンバーを再掲示していったらどうか？」との厳しいお言葉を頂きました。その意図は分かりかねますが、癪ながらも、何となく過去の記事に目を通していたら、思いもよらない発見があったというわけです。イチャモンも侮れません。「あら探しの好きな人、我が儘な人、厄介な質問をする人に言いたい。ありがとうございます。」(マイケル・デル)

### ○当面する行動

○7月15日(金) 18:30~/原水禁福岡地区実行委員会 福岡市教育会館中部事務所

○7月25日(月) 16:00~/県交運合同幹事会 JR博多シティ10F